

道徳科の内容項目「家族愛」の授業で 情報モラルに関する題材を扱った場合の意識

横山隆光, 吉村希至, 佐々木恵理, 八木彩花

岐阜女子大学

(2016年11月18日受理)

Consciousness when Dealing with Subjects Related to Information Morals in Class of Moral Course ‘Family Love’

Gifu Women’s University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

YOKOYAMA Takamitsu, YOSHIMURA Mreshi, SASAKI Eri, YAGI Ayaka

(Received November 18, 2016)

要 旨

特別の教科道徳の内容項目「家族愛」で情報モラルに関する題材を扱った授業の意識について調べた。「家族愛」と自尊感情、開放性、社会志向性、信頼感、公共心、共感とは強い相関はみられなかった。「家族愛」は、「家族間の助け合い」「家族間の愛情」「家族間の人間的なつながり」の3つの因子から成り、「家族間の助け合い」は社会志向性、信頼感、公共心、共感と中程度の相関がみられた。

〈キーワード〉 情報モラル, 道徳科, 道徳的規範意識, 小学校, 家族愛

1. はじめに

特別の教科道徳（以下、道徳科）で情報モラルに関する題材を扱う際の内容項目として「正直・誠実」「節度・節制」「思いやり」が多く取り上げられている。これらの内容項目は「A 主として自分自身に関すること」と「B 主として人とのかかわりに関すること」にあたる。情報モラル事例判断について玉田（2004）は、自分に関することは「思慮」「節度」の2因子構造、他人とのかかわりに関することでは「思いやり・礼儀」、社会とのかかわりに関することでは、「正義・規範」との1因子構造である述べている。国立青少年

教育振興機構調査（2016）は、自己肯定感、道徳観・正義感等の多寡と「スマホ依存度」にはほとんど関係ないことを報告している。また、「正直・誠実」「節度・節制」「思いやり」の授業では、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材を用いると、子供に教材理解の知識が不足している場合、道徳科の授業の前に情報モラルの授業を行う必要があることが明らかになりつつある。

道徳科の内容項目「家族愛」を扱う授業で情報モラルに関する題材を扱うようになってきた。「家族愛」は「C 主として集団や社会との関わりに関すること」にあたる。道徳科で「家族愛」を扱ったときの自尊感情など

との関係は分かっていない。小学校で実証授業を実施して調査したので報告する。

2. 情報モラルと道德教育

道德教育の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てること」である。情報モラル教育の目的は、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を養うことであり、道德教育との関係が深い。学校教育における道德教育は道德科を要として行われる。情報モラルに関する指導を充実する必要があるため、道德科で情報モラル教育の5つの柱のうち心の領域にあたる「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」を中心に扱う。道德科は道德的価値に関わる学習を行う特質があるため、指導に際しては情報モラルに関わる題材を生かして話し合いを深める授業が展開されることが多い。

道德教育には、知識重視型、行動・習慣重視型、心情重視型の3つの類型があると村井(1990)は述べている。知識重視型には、道德規範を教え込む規範重視、地理歴史などの知識を指導する中で道德的なセンスを身に付ける事実重視、ルールを教えて守らせるルール重視がある。行動・習慣重視型は、子供に望ましい行動をとり続けさせ習慣化することで道德的な行為が定着するというものである。心情重視型は葛藤場面を設定して心情に訴えるというもので、モラルジレンマを扱った授業が多く学校で行われている。村井は道德的判断に必要な思考の枠組みとして、規範に関する原則の知識、状況の知識、合理的判断の知識が必要であるとしている。

内閣府調査(2016)によると、小学生では、ゲーム機などのICT機器の利用率は86.2%、スマートフォン利用率は23.7%であり、前年に比べて増えてはきているものの利用しない小学生が存在する。道德科でスマホやSNSなどの操作を伴う題材を扱った場合、スマホやSNSなどの操作経験がなく、情報社会で安全に生活するための危険回避の方法の理解やセキュリティの知識・技術を持たない子供は、題材の理解が不十分となる場合がある。筆者らの調査では、題材の理解が不十分な場合、ねらいの根底にある道德的価値の理解を基に自己を見つめることができない子供が現れることが分かっている。村井の規範に関する原則の知識、状況の知識、合理的判断の知識の3つがそろっていない状態だと考えられる。

自己を見つめることができないのは、スマホなどの操作経験、危険回避の方法の理解、セキュリティの知識・技術を持たないことが要因であり、玉田の道德的規範知識の低い子供とは必ずしも一致しない。玉田は、情報技術の知識を獲得する態度を身につけさせることが重要で、「情報技術の複雑化により、情報技術の何が関係するのか、一般モラルで解決がつくのかという切り分けが困難な状況になっている」と述べている。筆者らは、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材の場合、あらかじめ情報モラルの授業で危険回避の方法の理解、セキュリティの知識・技術を得た上で、道德の授業で心を耕す展開とすることが必要だと考えている。

3. 意識調査

調査は2016年10月27日、小学校6年生(35名)の道德科で行った。授業前に道德科の題材に含まれるケータイの危険性や安全な使い

方の授業を実施した。道徳科では資料名「父の手紙」(広島県教科用図書販売)を用いて家族に対する感謝の心や敬愛の念について考えさせた。

授業の前後に意識調査を行った。意識調査は質問紙法で、4:思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:思わない の4件法で回答させた。意識調査の質問1~16は「家族愛」、質問17は自尊感情、質問18~19は開放性、質問20~21は社会志向性、質問22は信頼感、質問23は公共心、質問24は共感に関する質問とした。

事前調査での「家族愛」に関する質問1~16の相関を表1に示す。強い相関があったのは、質問「11.家族の笑顔が好き」と「1.家族が好き」「3.家族とケンカをしても仲直りができる」「7.家族が困っていたとき助けてあげる」,「8.自分が困っているとき、家族に助けを求める」と「9.家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜ぶ」,「1.家族が好き」と「12.家族が大切」,「2.家族と一緒に遊ぶ」と「16.家族に悩みを相談できる」であった。質問1~3と質問6~16は相互に中程度の相関があるものが多かった。「4.家のお手伝いをする」と「5.家族と毎日お話をする」は、他の質問との間に弱い相関があるものが多かった。「家族愛」についての質問4と質問5は、子供の実践意欲だけでなく、家庭でのお手伝いの約束の有無、家族の生活リズムなどによる時間の確保の要因が影響を与えているものと思われる。また、実証授業を行った学級は親子三世代の家庭が多いこともあり、家族思いの子供が多い学級であること分かる。

事前調査の「家族愛」について最尤法・バリマックス回転により因子分析した結果を表2に示す。第1因子は「家族が困っていたとき助けてあげる」「家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜ぶ」などに負荷が高く、

「家族間の助け合い」と命名した。第2因子は「家族が好き」「家族が大切」などに負荷が高く「家族間の愛情」とした。第3因子は「家族と毎日お話をする」「家族とケンカをしても仲直りができる」であり「家族間の人間的なつながり」と命名した。

事前調査の「家族愛」と他の尺度との相関係数を表3に示す。「家族愛」に関する質問と強い相関がみられた質問はなく、中程度の相関がみられたのは、社会志向性、信頼感、公共心、共感であった。「家族愛」に関する質問と強い相関も中程度の相関もみられなかったのは自尊感情、開放性とであった。「家族愛」に関する質問と中程度の相関がみられたのは社会志向性の質問20,質問21であり、「家族愛」の質問8,質問15,質問16と中程度の相関がみられた。信頼感の質問22も「家族愛」の質問7,質問16と中程度の相関がみられた。共感の質問24,と「家族愛」の質問7,質問8,質問16と中程度の相関がみられた。他の尺度と中程度の相関がみられたのは質問7,質問8,質問15,質問16であり、「家族愛」の第1因子に属する質問であった。

事前調査の質問1~24について、得点平均と、性別・ケータイ所有の有無・ケータイで連絡を取り合った経験の有無による得点平均を表4に示す。男女での有意差がみられたのは、いずれも「家族愛」に関する質問で、質問6,質問7,質問10,質問11であり、女子の得点平均が男子より有意に高かった。

ケータイ所持の有無による有意差がみられたのは、自尊感情にあたる質問17であり、ケータイを所持していない子供の得点平均が所持している子供より有意に高かった。

ケータイで連絡を取り合った経験の有無による有意差がみられたのは、質問1,質問6,質問12,質問17である。「家族愛」に関する質問の質問1,質問6,質問12は、ケータイで

表1 事前調査の「家族愛」の相関係数

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1. 家族が好き	-														
2. 家族と一緒に遊ぶ	.519**	-													
3. 家族とケンカをしても仲直りができる	.541**	.636**	-												
4. 家のお手伝いをする	.380*	.380*	.385*	-											
5. 家族と毎日お話をする	.423*	.597**	.693**	.188	-										
6. 家族にあいさつをする	.591**	.443**	.432**	.306	.366*	-									
7. 家族が困っていたとき助けてあげる	.570**	.558**	.630**	.484**	.287	.371*	-								
8. 自分が困っているとき、家族に助けを求める	.475**	.623**	.588**	.267	.602**	.423*	.607**	-							
9. 家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜ぶ	.530**	.550**	.541**	.230	.343*	.411*	.632**	.728**	-						
10. 家族を心配したことはある	.673**	.315	.591**	.315	.261	.479**	.617**	.447**	.531**	-					
11. 家族の笑顔が好き	.705**	.622**	.759**	.421*	.400*	.460**	.701**	.505**	.602**	.615**	-				
12. 家族が大切	.875**	.501**	.573**	.291	.600**	.500**	.447**	.541**	.482**	.674**	.625**	-			
13. 家族の好きなものを知っている	.610**	.303	.321	0.00	.207	.470**	.292	.353*	.613**	.434**	.484**	.503**	-		
14. 家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる	.566**	.324	.413*	.358*	.142	.341*	.431**	.243	.370*	.618**	.364*	.481**	.403*	-	
15. 家族に「ごめんなさい」と素直に謝ることができる	.364*	.377*	.389*	.247	.159	.319	.461**	.295	.363*	.362*	.471**	.370*	.309	.368*	-
16. 家族に悩みを相談できる	.501**	.706**	.569**	.398*	.457**	.301	.542**	.681**	.620**	.394*	.553**	.458**	.314	.337*	.392*

注) ** P < .01 * P < .05

連絡を取り合ったことがある子供の得点平均が連絡を取り合ったことがない子供より有意に高かった。

事前と事後の得点平均と、事後の性別・ケータイ所有の有無・ケータイで連絡を取り合った経験の有無による得点平均を表5に示す。事前と事後の得点平均に有意な差はみられなかった。これは、もともと家族思いの子供が多く得点平均が4.00に近いものが多かったことと関係があるものと思われた。得点平均が2.9と低い「2. 家族と一緒に遊ぶ」は子供の実践意欲だけでは実現できない内容

を含んでおり、得点平均が2.8と低い質問1は本時の題材で扱った内容とは異なっていたことが原因と考えられた。

男女での有意差がみられたのは、いずれも「家族愛」に関する質問で、質問1, 質問3, 質問6, 質問7, 質問8, 質問10であり、女子の得点平均が男子より有意に高かった。事前の平均得点で女子が男子より高かったのは、質問6, 質問7, 質問10, 質問11であり、事後になると、質問1, 質問3, 質問8が加わり、質問11では有意差はみられなくなった。

ケータイ所持の有無による有意差がみられ

表2 事前調査の「家族愛」の因子分析結果

	f 1	f 2	f 3
7. 家族が困っていたとき助けてあげる	.775	.326	.141
9. 家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜ぶ	.657	.334	.213
11. 家族の笑顔が好き	.643	.500	.244
16. 家族に悩みを相談できる	.616	.238	.350
2. 家族と一緒に遊ぶ	.565	.230	.501
8. 自分が困っているとき、家族に助けを求める	.556	.226	.508
15. 家族に「ごめんなさい」と素直に謝ることができる	.451	.285	.058
4. 家のお手伝いをする	.430	.227	.100
1. 家族が好き	.306	.871	.248
12. 家族が大切	.167	.813	.457
10. 家族を心配したことがある	.448	.631	.105
13. 家族の好きなものを知っている	.257	.560	.086
14. 家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる	.331	.530	.015
6. 家族にあいさつをする	.282	.473	.259
5. 家族と毎日お話をする	.123	.163	.978
3. 家族とケンカをしても仲直りができる	.579	.270	.591
寄与率 (%)	23.561	21.854	15.195
累積寄与率 (%)	23.561	45.415	60.611

注) 最尤法・バリマックス回転

表3 事前調査の「家族愛」と他の尺度との相関係数

「家族愛」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(自尊感情)																
17. 自分は友達から信頼されている	.132	.152	.244	.014	.207	.034	.239	.262	.297	.115	.210	.036	.181	.182	.073	.358*
(開放性)																
18. 学校生活が楽しい	.326	.179	.353*	-.075	.329	.050	.198	.160	.388*	.349*	.306	.319	.311	.238	.112	.281
19. どんな人ともうまくつきあえる	-.013	.016	-.015	-.143	.173	-.041	-.093	.026	.039	-.253	-.006	-.082	.051	-.051	.209	.162
(社会志向性)																
20. 相手の気持ちを考えて話している	.021	.283	.240	.011	.356*	.108	.092	.406*	.079	-.124	.096	.059	0.00	-.089	.240	.409*
21. 学級の約束を守っている	.099	.265	.233	.000	.271	.025	.212	.285	.182	.015	.272	.092	.202	-.041	.409*	.324
(信頼感)																
22. 自分自身のこと信頼できる	.237	.227	.157	-.015	.154	-.108	.409*	.252	.225	.031	.369*	.119	.272	.049	.230	.409*
(公共心)																
23. 人の物を大切にできる	.218	.047	.275	.217	.161	.198	.215	.109	.033	.266	.322	.245	.227	.105	.558**	.296
(共感)																
24. 私のことを周りの人が理解している	.181	.346*	.344*	.060	.334*	.157	.446**	.443**	.384*	.097	.278	.166	.176	.041	.389*	.508**

注) **P<.01 *P<.05

表4 事前調査の全体と性別, ケータイ所有, 連絡経験による得点平均 (標準偏差)

質問	全体		性別		ケータイを持っているか			ケータイで連絡を取り合ったことがあるか			
	35 (人)	男	女	P	はい	いいえ	P	ある	ない	P	
		15	20		8	27		23	12		
1	3.51 (0.78)	3.26 (0.88)	3.7 (0.66)	n.s.	3.75 (0.71)	3.44 (0.78)	n.s.	3.73 (0.54)	>	3.08 (0.83)	**
2	2.94 (0.87)	2.80 (0.77)	3.05 (0.94)	n.s.	3.00 (0.76)	2.92 (0.78)	n.s.	3.04 (0.88)		2.75 (0.83)	n.s.
3	3.28 (0.83)	3.00 (0.85)	3.50 (0.76)	n.s.	3.12 (0.99)	3.33 (0.78)	n.s.	3.34 (0.83)		3.16 (0.83)	n.s.
4	3.20 (0.83)	3.06 (0.96)	3.30 (0.73)	n.s.	3.25 (0.71)	3.18 (0.78)	n.s.	3.17 (0.78)		3.25 (0.83)	n.s.
5	3.65 (0.64)	3.60 (0.51)	3.70 (0.73)	n.s.	3.75 (0.71)	3.62 (0.78)	n.s.	3.73 (0.62)		3.50 (0.83)	n.s.
6	3.17 (1.01)	2.66 (1.18)	3.55 (0.69)	**	3.50 (0.53)	3.07 (0.78)	n.s.	3.47 (0.79)	>	2.58 (0.83)	**
7	3.25 (0.82)	2.93 (0.96)	3.50 (0.61)	*	3.37 (1.06)	3.22 (0.78)	n.s.	3.21 (0.85)		3.33 (0.83)	n.s.
8	3.31 (0.90)	3.13 (0.83)	3.45 (0.94)	n.s.	3.62 (0.52)	3.22 (0.78)	n.s.	3.30 (0.93)		3.33 (0.83)	n.s.
9	3.25 (0.95)	3.00 (1.07)	3.45 (0.83)	n.s.	3.50 (1.07)	3.18 (0.78)	n.s.	3.26 (1.05)		3.25 (0.83)	n.s.
10	3.48 (0.85)	3.00 (1.07)	3.85 (0.37)	**	3.62 (1.06)	3.44 (0.78)	n.s.	3.65 (0.78)		3.16 (0.83)	n.s.
11	3.08 (1.04)	2.53 (1.13)	3.50 (0.76)	**	3.12 (1.36)	3.07 (0.78)	n.s.	3.17 (1.07)		2.91 (0.83)	n.s.
12	3.68 (0.63)	3.53 (0.74)	3.80 (0.52)	n.s.	3.87 (0.35)	3.62 (0.78)	n.s.	3.86 (0.34)	>	3.33 (0.83)	**
13	3.00 (1.11)	2.73 (1.16)	3.20 (1.06)	n.s.	3.12 (1.25)	2.96 (0.78)	n.s.	3.26 (1.01)		2.50 (0.83)	n.s.
14	3.28 (0.79)	3.26 (0.96)	3.30 (0.66)	n.s.	3.00 (1.07)	3.37 (0.78)	n.s.	3.39 (0.78)		3.08 (0.83)	n.s.
15	2.77 (0.94)	2.53 (1.06)	2.95 (0.83)	n.s.	3.12 (0.83)	2.66 (0.78)	n.s.	2.82 (0.98)		2.66 (0.87)	n.s.
16	3.08 (1.01)	3.00 (1.00)	3.15 (1.04)	n.s.	3.25 (0.89)	3.03 (0.78)	n.s.	3.04 (1.02)		3.16 (0.83)	n.s.
17	2.80 (1.02)	2.80 (1.01)	2.80 (1.06)	n.s.	2.12 (1.13)	< 3.00 (0.92)	*	2.47 (1.08)	<	3.41 (0.87)	**
18	3.25 (0.85)	3.00 (1.00)	3.45 (0.69)	n.s.	3.00 (1.07)	3.33 (0.78)	n.s.	3.21 (0.95)		3.33 (0.83)	n.s.
19	2.74 (1.04)	2.86 (0.99)	2.65 (1.09)	n.s.	2.62 (1.19)	2.77 (0.92)	n.s.	2.60 (1.16)		3.00 (0.87)	n.s.
20	3.25 (0.66)	3.26 (0.70)	3.25 (0.64)	n.s.	3.25 (0.71)	3.25 (0.78)	n.s.	3.17 (0.72)		3.41 (0.83)	n.s.
21	3.57 (0.65)	3.46 (0.74)	3.65 (0.59)	n.s.	3.62 (0.52)	3.55 (0.78)	n.s.	3.47 (0.73)		3.75 (0.83)	n.s.
22	2.77 (0.97)	2.73 (1.10)	2.80 (0.89)	n.s.	2.87 (0.83)	2.74 (0.92)	n.s.	2.60 (1.03)		3.08 (0.87)	n.s.
23	3.57 (0.81)	3.26 (1.03)	3.80 (0.52)	n.s.	3.62 (0.74)	3.55 (0.78)	n.s.	3.56 (0.73)		3.58 (0.83)	n.s.
24	2.88 (1.05)	2.80 (1.21)	2.95 (0.94)	n.s.	2.62 (1.06)	2.96 (0.92)	n.s.	2.65 (1.11)		3.33 (0.87)	n.s.

注) ** P < .01 * P < .05

表5 事前事後(全体)の比較と事後調査の性別, ケータイ所有, 連絡経験による得点平均(標準偏差)

質問	全体		P	性別(事後)		P	ケータイを持っているか(事後)		P	ケータイで連絡を取ったことがあるか(事後)		P
	事前	事後		男	女		はい	いいえ		ある	ない	
	35(人)	35		15	20		8	27		23	12	
1	3.51 (0.78)	3.40 (0.94)	n.s.	3.14 (0.95)	< 3.75 (0.44)	*	3.85 (0.38)	3.40 (0.8)	n.s.	3.52 (0.77)	3.44 (0.73)	n.s.
2	2.94 (0.87)	2.91 (1.09)	n.s.	2.78 (0.70)	3.15 (1.14)	n.s.	3.71 (0.49)	< 2.81 (1.00)	*	3.08 (0.95)	2.77 (1.09)	n.s.
3	3.28 (0.82)	3.17 (1.01)	n.s.	2.85 (1.03)	< 3.55 (-0.60)	*	3.42 (0.79)	3.22 (0.89)	n.s.	3.32 (0.85)	3.11 (0.93)	n.s.
4	3.20 (0.83)	3.11 (0.93)	n.s.	3.00 (0.68)	3.35 (0.81)	n.s.	3.42 (0.79)	3.14 (0.77)	n.s.	3.24 (0.72)	3.11 (0.93)	n.s.
5	3.65 (0.63)	3.51 (0.98)	n.s.	3.42 (0.76)	3.75 (0.79)	n.s.	3.85 (0.38)	3.55 (0.85)	n.s.	3.72 (0.68)	3.33 (1.00)	n.s.
6	3.17 (1.01)	2.88 (1.13)	n.s.	2.42 (0.94)	< 3.35 (0.93)	**	3.57 (0.79)	2.81 (1.04)	n.s.	3.04 (0.93)	2.77 (1.3)	n.s.
7	3.25 (0.81)	3.22 (1.00)	n.s.	2.92 (1.00)	< 3.60 (0.6)	*	3.57 (0.79)	3.25 (0.86)	n.s.	3.24 (0.93)	3.55 (0.53)	n.s.
8	3.31 (0.90)	3.02 (1.04)	n.s.	2.71 (0.73)	< 3.40 (0.94)	*	3.28 (0.76)	3.07 (0.96)	n.s.	3.2 (0.91)	2.88 (0.93)	n.s.
9	3.25 (0.95)	3.34 (0.99)	n.s.	3.28 (0.83)	3.55 (0.83)	n.s.	3.57 (0.79)	3.40 (0.84)	n.s.	3.44 (0.82)	3.44 (0.88)	n.s.
10	3.48 (0.85)	3.42 (0.94)	n.s.	3.21 (0.89)	< 3.75 (0.55)	*	3.71 (0.76)	3.48 (0.75)	n.s.	3.52 (0.77)	3.55 (0.73)	n.s.
11	3.08 (1.03)	3.17 (1.01)	n.s.	3.07 (-1.00)	3.40 (0.75)	n.s.	3.57 (0.79)	3.18 (0.88)	n.s.	3.32 (0.85)	3.11 (0.93)	n.s.
12	3.68 (0.63)	3.51 (0.81)	n.s.	3.42 (0.51)	3.75 (0.55)	n.s.	3.85 (0.38)	3.55 (0.58)	n.s.	3.64 (0.49)	3.55 (0.73)	n.s.
13	3.00 (1.11)	3.00 (1.18)	n.s.	2.78 (1.19)	3.30 (0.98)	n.s.	3.00 (1.00)	3.11 (1.12)	n.s.	3.08 (1.04)	3.11 (1.27)	n.s.
14	3.28 (0.78)	3.22 (0.94)	n.s.	3.07 (0.92)	3.50 (0.61)	n.s.	3.42 (0.79)	3.29 (0.78)	n.s.	3.32 (0.75)	3.33 (0.87)	n.s.
15	2.77 (0.94)	2.85 (1.06)	n.s.	2.57 (1.09)	3.20 (0.77)	n.s.	3.28 (1.11)	2.85 (0.91)	n.s.	2.84 (0.9)	3.22 (1.09)	n.s.
16	3.08 (1.01)	2.80 (1.20)	n.s.	2.64 (1.28)	3.05 (-1.00)	n.s.	3.00 (1.15)	2.85 (1.13)	n.s.	2.92 (1.08)	2.77 (1.30)	n.s.
17	2.80 (1.02)	2.57 (1.03)	n.s.	2.78 (-0.80)	2.55 (1.05)	n.s.	2.00 (1.15)	< 2.81 (0.83)	*	2.48 (0.96)	3.11 (0.78)	n.s.
18	3.25 (0.85)	3.11 (1.10)	n.s.	3.14 (0.95)	3.25 (1.02)	n.s.	2.57 (1.27)	3.37 (0.84)	n.s.	3.04 (1.02)	3.66 (0.71)	n.s.
19	2.74 (1.03)	2.42 (1.09)	n.s.	2.50 (0.94)	2.50 (1.10)	n.s.	2.14 (1.21)	2.59 (0.97)	n.s.	2.32 (1.07)	3.00 (0.71)	n.s.
20	3.25 (0.65)	3.08 (1.01)	n.s.	2.92 (0.83)	3.35 (0.88)	n.s.	3.42 (0.79)	3.11 (0.89)	n.s.	3.08 (0.86)	3.44 (0.88)	n.s.
21	3.57 (0.65)	3.48 (0.91)	n.s.	3.57 (0.65)	3.60 (0.75)	n.s.	3.85 (0.38)	3.51 (0.75)	n.s.	3.60 (0.71)	3.55 (0.73)	n.s.
22	2.77 (0.97)	2.77 (1.05)	n.s.	2.78 (1.05)	2.90 (0.91)	n.s.	3.14 (0.69)	2.77 (1.01)	n.s.	2.68 (0.99)	3.33 (0.71)	n.s.
23	3.57 (0.81)	3.60 (0.84)	n.s.	3.64 (0.74)	3.75 (0.44)	n.s.	3.71 (0.49)	3.70 (0.61)	n.s.	3.76 (0.52)	3.55 (0.73)	n.s.
24	2.88 (1.05)	2.60 (1.14)	n.s.	2.71 (1.14)	2.65 (1.04)	n.s.	2.14 (1.07)	2.81 (1.04)	n.s.	2.6 (1.04)	2.88 (1.17)	n.s.

注) **P<.01 *P<.05

たのは、自尊感情にあたる質問17であり、ケータイを所持していない子供の得点平均が所持している子供より有意に高かった。事前と事後の得点平均に有意差はみられなかった。

ケータイで連絡を取り合った経験の有無による有意差はみられなかった。事前の得点平均では、質問1, 質問6, 質問12, 質問17で有意差がみられたが、実証授業での話し合いなどにより有意差がなくなったものと思われる。

4. 調査結果より

実証授業で用いた資料「父の手紙」では、ケータイは主人公がお父さんと話がしたくて急いでメールした場面で利用されている。素早く文章を伝えるツールとして描かれているだけで、危機回避や安全な使い方にかかわるものではない。筆者らの調査では、情報モラルに関する教材は、情報を正しく安全に利用する知恵が必要な教材と情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材があることが分かっている。メールやSNSのやり取りによるトラブル、ネット依存によるトラブルなどを取り上げる場合は情報を正しく安全に利用する知恵が必要な教材に分類される。操作方法やネット依存などの知識がない場合、登場人物の行った行動の意味が分からなかったり、心情が読み取れなかったりすることがある。これに対して、資料「父の手紙」は情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材にあたる。情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材では、父への伝言をメールで送るなど行為を理解しやすく、今回の実証授業のビデオ記録やワークシートの分析でも全員が理解できていたことが明らかになっている。全員が理解できてい

たため、実証授業では、資料の範読後、資料に描かれた状況を理解し、主人公の気持ちを考え一人一人が「家族愛」について考え、自己をみつめる展開となった。情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材を用いた場合の意識について分析する。

「家族愛」について因子分析した結果、「家族間の助け合い」「家族間の愛情」「家族間の人間的なつながり」の3つの因子を取り出すことができた。「家族愛」と自尊感情、開放性、社会志向性、信頼感、公共心、共感との関係では強い相関はみられなかった。「家族愛」と中程度の相関がみられたのは、社会志向性、信頼感、公共心、共感であった。強い相関も中程度の相関もみられなかったのは自尊感情、開放性とであり、玉田の報告と一致していると思われる。

「家族愛」に関する質問のうち、社会志向性、信頼感、公共心、共感と中程度の相関がみられたのは、質問7, 質問8, 質問15, 質問16であり、「家族愛」の第1因子「家族間の助け合い」に属する質問であった。

事前と事後の得点平均の有意差はみられなかった。これは、もともと得点平均が高い集団であり、事前事後の有意差が生じにくいものと考えられた。また、得点が低い質問は道徳的实践意欲以外の要因が影響を与えているものと思われる。

事前調査で男女での有意差がみられたのは「家族愛」に関する質問で、質問6, 質問7, 質問10, 質問11であり、女子の得点平均が男子より有意に高かった。事後調査で男女での有意差がみられたのは、「家族愛」に関する質問で、質問1, 質問3, 質問8が加わり、女子の得点平均が男子より有意に高かった。質問11では有意差はみられなくなった。女子が男子より「家族愛」に関する内容についての実践意欲が高まることを示唆しているものと

思われる。

ケータイ所持の有無による有意差がみられたのは、事前も事後も自尊感情にあたる質問17であり、ケータイを所持していない子供の得点平均が所持している子供より有意に高かった。事前と事後の得点平均に有意差はみられなかった。これは、実証授業が「家族愛」であり、自尊感情には影響を与えなかったためであると考えられる。

事前の得点平均で、ケータイで連絡を取り合った経験の有無による有意差がみられたのは、質問1, 質問6, 質問12, 質問17である。「家族愛」に関する質問の質問1, 質問6, 質問12. 家族が大切は、ケータイで連絡を取り合ったことがある子供の得点平均が連絡を取り合ったことがない子供より有意に高かった。事後の得点平均では有意差は見られなかった。ケータイで連絡を取り合った経験の有無にかかわらず、「家族愛」の内容についての実践意欲が高まったためと思われた。

5. おわりに

情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材の場合、事前に情報モラルの授業を行う必要はないことが分かっている。本報告では情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材を用いた場合の道徳科「家族愛」の実証授業から子供の意識について考察した。情報を正しく安全に利用する知恵が必要な教材について、今後、調査する必要がある。

事前・事後調査では、質問紙法で自尊感情、開放性、社会志向性、信頼感、公共心、共感に調査した。「家族愛」に重点を置いたため、自尊感情、開放性等に関する質問数が限られており、今後、調査項目を増やして調査を継続する予定である。

参考文献

- (1) 村井実 (2010) 道徳は教えられるか, 国土社
- (2) 有光興記, 藤澤文 (2015) モラルの心理学: 理論・研究・道徳教育の実践, 北大路書房
- (3) 文部科学省 (2015) 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編
- (4) 玉田和恵 (2004) 道徳的規範意識・情報技術の知識・合理的判断の知識による情報モラル指導法の開発と評価, 東京工業大学リサーチポジトリ
- (5) 玉田和恵, 松田稔樹 (2012) 教師と生徒が考える情報モラル教育改善のための3要因, 日本教育工学会研究報告集, 2012-12-15, p. 203-210,
- (6) 内閣府 (2016) 平成27年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果
- (7) 国立青少年教育振興機構 (2016) 青少年の体験活動等に関する実態調査 (平成26年度調査)
- (8) 宮川洋一, 森山潤 (2011) 道徳的規範意識と情報モラルに対する意識の関係—中学校学習指導要領の解説「総則編」に示された情報モラルの考え方に基いて—, 日本教育工学会論文誌 vol. 35 No. 1, p. 73-82

